



DOCTOR'S MAGAZINE 【特別企画】

# Case Study

地域医療のカタチ #02

## 和歌山県

### 和歌山研修ネットワーク

今号の「Case Study 地域医療のカタチ」は、2014年度からスタートした全国初の画期的な研修システム『和歌山研修ネットワーク』を紹介。和歌山県立医科大学地域医療支援センター長・上野雅巳氏と和歌山県福祉保健部技監・野尻孝子氏の対談、さらに研修医たちの声によって和歌山県の医療の魅力に迫る。

聞き手/ドクターズマガジン編集部 文/田口素行 撮影/嶋田敦之 写真提供/(公社)和歌山県観光連盟



#### about WAKAYAMA

和歌山県は海・山・川の大自然に恵まれ、年間日照時間が長く、温暖な気候で過ごしやすい地域。「フルーツ王国」といわれるほど果物の生産量が多く、水産業も盛んである。世界遺産など歴史文化にも恵まれ、全国有数の温泉地であり、アドベンチャーワールド、和歌山マリナーシティなどレジャー施設や観光スポットも豊富。大阪からは電車や車で約1時間、東京からは飛行機で約70分とアクセスも良好。

#### INFORMATION

和歌山県医師臨床研修連絡協議会  
Tel: 073-441-2612 [Web](http://www.wakayama-medical.jp)



和歌山県PRキャラクター「きいちゃん」  
©和歌山県

——和歌山県の医療の現状と地域医療への取り組みについて教えてください。

**野尻**：和歌山県は7つの医療圏それぞれに中核病院があり、密な地域連携によって医療体制を維持しています。山間部へき地が多い一方、県内医療機関の約50%、医師の約60%が和歌山市に集中するなど医師偏在が課題となっています。その解決策の一つとして、地域にいな



**上野**：地域にいながらにして専門医からの情報や意見を得られる環境は、若手医師のスキルアップにも役立っています。さらに、県内に9つある基幹型臨床研修病院のどこを選んで受けるか、『和歌山研修ネットワーク』が2014年度からスタートしました。大学病院と市中病院、地域医療と、あらゆる現場で研鑽を積むこと

ができる研修環境は、和歌山県ならではの大きな特徴です。——『和歌山研修ネットワーク』の強みは何でしょうか。  
**上野**：さまざまな経験ができる貴重な2年間が無駄にならないよう、自由度を重視していることです。地域医療、Common Disease、高度医療といったさまざまな領域、症例を、9病院でフレキシブルに経験できる研修システムなので、幅広い総合力を備えたスペシャリストを目指すことができますし、考える力やコミュニケーション能力など高い人間力を有した医師になることができます。

の強みに加え、和歌山県は人が温かく、患者さんは医師を尊敬してくれ、若手医師に非常に協力的なことも特徴です。積極的な経験やチャレンジがしやすい環境にあるので、実践的な臨床スキルを確実に習得することができそうですよね。——『和歌山研修ネットワーク』がスタートして7年がたちますが、成果や手応えはいかがでしょう。  
**上野**：地域にある研修病院のマッチング率も増えてきましたし、研修医が地域の医療機関で研修することは医師偏在対策にも役立っています。

和歌山県立医科大学 地域医療支援センター 教授  
同大学附属病院 卒後臨床研修センター 参与

**上野 雅巳**  
Masami Ueno

1985年、和歌山県立医科大学卒業。和歌山労災病院脳神経外科、南イリノイ大学 (Research Fellow) 留学。川崎医科大学救急医学講座講師や和歌山県立医科大学救命救急センター講師、和歌山県立医科大学卒後臨床研修センター長を経て、2013年より現職。全国初の研修システム『和歌山研修ネットワーク』の立役者。



# 日本初の画期的な研修システムで、幅広い実力と理想のキャリアを獲得

『は地域における医師確保にもつながっており、地域医療課題を解決するための重要な施策にもなっていますよね。』

**上野**：そうですね。また、いろいろな病院を経験したり、同じ診療科でも大病院と市中病院を経験できることで専門研修プログラムを選ぶ際の見極めや判断がしやすくなるなど、新専門医制度におけるキャリア選択にも最適です。この制度をスタートしてから、3年目以降も和歌山県に残る医師は毎年高水準を保っています。



——「和歌山モデル」と呼ばれるCOVID-19感染症対策の成功も、オール和歌山のネットワーク体制が生かされたのでしょうか。

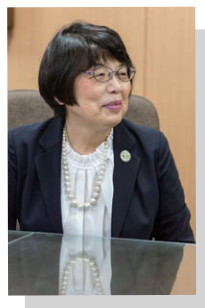
**野尻**：はい。CT画像を感染症専門医と共有するなど診断には「遠隔医療支援システム」が有効に活用されました。当初和歌山県には感染症病床が32床しかなく、結核モデル病床を入れて45床でしたが、今では605床(取材時)まで増床しました。人口10万人当たりでは全国1位の病床数です。各病院保健所が「オール和歌山」として一丸となり、検査、行動履歴の調査、原則全入院、ワクチン接種など、迅速かつフレキシブルに動けたことが感染拡大の抑制につながったと思います。

**上野**：幅広い選択肢から自由に病院、診療科を選べる『和歌山研修ネットワーク』も、オール和歌山だからこそ実現できた研修なんですよ。

——オール和歌山だからこそ経験できる医療や研修の面白さ、魅力は何でしょう。

**野尻**：多様な症例や手技を思

う存分に経験できることですね。また、県内の医師同士の顔が見える環境は、スキルアップ、キャリア形成、仕事のしやすさにも大きくつながっていると



思います。

——今後の展望や、未来の医療を担う医学生、若手医師の方々へのメッセージをお願いします。

**野尻**：これからの医師は、超高齢社会や、災害医療、感染症パニックなどにも対応できる力が求められており、専門性と総合力の両立が必要です。またCOVID-19で、公衆衛生という言葉が再び脚光を浴びていますが、そうした地域を診るドクターを目指す若い人が一人でも増えようという思いです。医師としての使命感と責任感を醸成し、どのような患者さんでも診ることができる医師になつてほしいと思います。

**上野**：和歌山県は約91万人という人口の少ない県ということもあって、顔が見えやすいんです。そのため、どの病院にどんな指導医がいて、どのような領域に強いかなども把握できているのは大きいですね。例えば消化器内科を研修するにしても、A病院は胃の症例に強く、B病院は大腸の症例が強いということを分かっていたうえで研修先を選ぶことができます。人口が多く、医師数も多い東京や大阪などの大都市ではできないことです。個々の研修医にとって最適な病院選びや診療科選択の判断がしやすく、しかも自由に選んで納得のいく研修プ

**上野**：3年目からは専門性を高めながら、同時に社会、地域そして患者さん全体を診ることができる医師を目指してほしいですよ。自分や家族が病気になったとき、どんな医師がいなければ困るのかを考えながら、理想とする医師像を追求してほしいです。

**野尻**：それを実現できるのが

『和歌山研修ネットワーク』なんですよね。

**上野**：そうですね。このシステムで研修をした医師たちが指導医となり、医師同士や病院間のつながりが増え、顔の見える関係が広がることで、さらなる質の高い医療や教育環境へ進化していくはずですよ。医学生・研修医の皆さん、いろいろな病院、診療科を経験し、どんな場所でも活躍できる医師になつてください。和歌山県でお待ちしています！



和歌山県 福祉保健部 技監

**野尻 孝子**

Takako Nojiri

1981年、和歌山県立医科大学卒業。小児科医として活躍し、1991年、入庁。保健所長などを経て、2013年、福祉保健部健康局長。2018年より現職。和歌山県のCOVID-19感染症対策では中心となって活躍し、県内独自のデータを活用して感染者の早期発見や積極的な検査を実施するなどして感染拡大を収束。「和歌山モデル」として高く評価されている。

# 和歌山 研修ネットワーク の魅力

和歌山県の研修医に聞く



『和歌山研修ネットワーク』を活用し、  
充実した研修医生活を送る研修医たちの声を紹介。  
研修ポイントや『和歌山研修ネットワーク』の活用方法など、  
和歌山県で研修をする魅力を語ってもらった。

## 和歌山県ならではの、他にはない研修システムと医療

とにかく手を動かして体で覚えたいという思いが強くあり、市中病院を研修先を選びました。『和歌山研修ネットワーク』は大学病院、各市中病院、地域医療と、それぞれの「いいとこ取り」の研修ができることが魅力です。例えば血液内科でいうと、和歌山県南部ではATL（成人T細胞白血病リンパ腫）という他ではなかなか診られない地域特有の病気があるのですが、大学病院と市中病院では、治療の仕方に違いがあり、そのどちらも経験できます。これは和歌山県の医療ならではの、血液内科志望の方にとってこれ以上に魅力ある環

境はないと思います。

また、研修採用病院である紀南病院の位置する地域には海も山もあり、手に釣り針が刺さった人やマダニやマムシ咬傷など都会にはない症例も豊富。この土地ならではの患者さんを診ることができ、医師としての幅も広がってくれます。患者さんから感謝されることも多く、医師としてのやりがい、楽しさも実感できます。



紀南病院  
初期研修 2 年目

中松 和海  
Kazumi Nakamatsu

WAKAYAMA LIFE 地域医療研修先的那智勝浦町立温泉病院前で、同期研修医と

## 各研修病院の「強み」を吸収し、医師としての大きな力に

研修採用病院である和歌山労災病院には腎臓内科や膠原病内科がないのですが、『和歌山研修ネットワーク』を活用して大学病院で研修をするなど、採用病院にはない診療科の経験もできています。また、大学病院では循環器内科を回っているところですが、最先端医療であるTAVI（経カテーテルの大動脈弁留置術）など、同じ診療科であっても市中病院とは違った医療を経験できるのも魅力です。病院によって雰囲気や患者層、重症度も違うため、『和歌山研修ネットワーク』によって各病院で異なる「強み」

を吸収できることは医師としての大きな力になると感じます。

また、各研修病院の同期や多くの指導医との出会いは、それだけ多くの知識、考え方、勉強方法などにも触れられ、学びの幅を広げてくれますし、多くの医師と関わりをもてることは、今後の医師人生において大きな糧になると思います。



WAKAYAMA LIFE 和歌山労災病院医局にて、研修医仲間と



和歌山労災病院  
初期研修 2 年目

山本 圭輔  
Keisuke Yamamoto

POINT/

**2** 3カ月ごとにローテート科を  
1カ月単位で選択可能

採用4カ月目以降は、3カ月ごとにローテート科を1カ月単位で選択することが可能。研修の途中で興味のある病院、診療科が変わっても、柔軟に対応できる。

POINT/

**1** 和歌山県内全ての基幹型  
臨床研修病院で研修可能

県内全ての基幹型臨床研修病院が相互に協力型病院となることで、採用病院にない診療科の研修も経験できる。

和歌山  
研修ネットワーク  
4つのポイント

## 最適なキャリア選択ができる研修。生活環境も抜群です

3年目以降、大学の医局に入るのか、市中病院の専門プログラムに進むのか、両方を体験したうえで選びたいと思い、3カ月ごとに各研修病院の診療科を選択して自由に経験できる『和歌山研修ネットワーク』を活用しています。

研修病院を変えることでカルテのシステムや手術器具の呼び方の違いに戸惑うこともあります。研修医のうちに複数の病院環境や医療体制を知ることで、3年目以降にさまざまな施設で働くことへの自信がつくと思います。

さらに和歌山県は指導医が多く、フォロー体制が充実

していることも特徴です。多くの指導医と関わることで先生方がこれまで経験されてきた医療や病院の話幅広く聞けることは進路選択にも役立ちます。

和歌山県は生活環境としても素晴らしく、安い家賃で広い部屋に住め、関西国際空港からは和歌山駅まで直通バスが出ているなど移動も便利。海・山・川のある環境なのでアウトドア系の趣味もたくさん見つけることができ、都会より豊かな生活ができることも魅力です。



日本赤十字社  
和歌山医療センター  
初期研修 2年目

西松 謙一  
Kenichi Nishimatsu

WAKAYAMA LIFE 白浜アドベンチャーワールドにて、妻（研修医）とパンダとのスリーショット

## 成長や変化に合わせた月単位の柔軟な研修が可能

大学病院では最先端医療を実施したり重症患者を診る機会が多く、一方、市中病院ではCommon Diseaseが多く、短時間で済む手術を一日に何件も実施するなど、『和歌山研修ネットワーク』を活用することで、さまざまな疾患や手技を経験でき、医師としての幅がどんどん広がっていることを実感できます。

『和歌山研修ネットワーク』の研修プログラムは年単位ではなく3カ月単位で決めることができ、採用病院以外の研修病院や診療科も自由に選べるシステムなので、そのときの考えや思いに合わせてフレキシブルに

研修プログラムを組むことができます。また、複数の研修病院を回っている同期や先輩から、実体験による各病院、診療科の詳細を聞くことができ、3年目以降の進路選択にも大いに役立ちます。

研修先を決める際は大学病院か市中病院かで迷うと思いますが、両方を体験できる和歌山県ならそうした悩みは無用です。誰にとっても最適で満足度の高い研修ができるはずですよ。



WAKAYAMA LIFE 和歌山市加太海岸で同期研修医と。日暮れを待って花火に



和歌山県立  
医科大学附属病院  
初期研修 2年目

今栄 なぎさ  
Nagisa Imae

## 確かな実力と明確なキャリアビジョンを獲得できる

地域出身なので、3年目以降は和歌山県内の地域の病院に従事することが決まっています。そのため、初期研修のうちに地域医療の現場を経験したかったこと、さらに大学病院でお世話になった先生が新宮市立医療センターに赴任することになり、引き続きその先生に指導を受けたいと思ったことから、新宮市立医療センターへ研修に行きました。

地域の病院を経験したことで3年目以降に自分になるべき医師像を明確にイメージできるようになり、大学病院では最先端の医療や薬の使い方など多くの知識

を吸収しました。また、市中病院では実際に自分で手を動かしながら大学病院で得た知識を生かすなど、インプットしたことをしっかりアウトプットできたことで確かな実力がついてきたことを実感しています。

また、和歌山県は自然が豊かで、仕事終わりに釣りなどを楽しむこともできますし、世界遺産や温泉など観光スポットも豊富にあるので、生活面やオフでも満足度の高さを実感できるはずですよ。



和歌山県立  
医科大学附属病院  
初期研修 2年目

串 雅紀  
Masaki Kushi

WAKAYAMA LIFE 『太地町立くじらの博物館』前で、同期研修医と

POINT/ **4** 研修医支援体制の充実

採用病院のプログラム責任者が、到達目標を達成できるよう責任を持って、助言・指導・サポートを行う。また、採用病院以外で研修中も所属は採用病院のままなので、研修先変更に伴う手続きは最小限で済む。

POINT/ **3** 新専門医制度にも対応

病院や診療科の選択肢が広がり、かつ柔軟に対応できるため、将来進みたい診療科を見極めたいうえで、3年目以降の「専門研修プログラム」を決めることができる。

